

北陸層群からいくつかの年代測定結果の報告

Result of age determination of samples from Hokuriku Group

*長谷部 徳子¹、上口 棕²*Noriko Hasebe¹, Ryo Kamiguchi²

1. 金沢大学環日本海域環境研究センター、2. 金沢大学地球学教室

1. Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University, 2. Department of Earth Sciences, Kanazawa University

本研究では、石川県南部の鶴来地区などに分布する医王山累層とされる層や、金沢大学周辺や魚津地区で広域テフラ層との対比からのみ年代が推定されているものに対してジルコンフィッシュントラック（ZFT）年代測定法およびU-Pb年代測定法を用いて年代測定を行った。その結果、鶴来地区の医王山累層はZFT年代 (pooled age) が $12.2 \pm 1.9 \sim 15.7 \pm 2.8$ Ma (誤差は 2σ)、U-Pb年代が $17.2 \pm 0.5 \sim 21.0 \pm 0.9$ Ma となり、日本海拡大イベント期に形成されたマグマだまりから時間をおいて（もしくは再溶融により）噴火が起こったことが示唆された。また医王山累層上層の音川累層から採取した試料も医王山累層の試料と誤差の範囲で一致する値となり、この地域の医王山累層と音川累層は短期間で形成されたと考えられる。これは八尾での早川（1983）の知見と矛盾しない。一方、採石場から採取した試料カガライトは、広域テフラとの対比（田村・山崎，2004）より約4.4 Ma と見積もられているTR1（大久保，1999）に相当すると考えたが、ZFT年代は 33.2 ± 4.6 Ma、U-Pb年代は 65.3 ± 2.0 Ma となり、大きく予想から外れていた。魚津地域から採取した試料はZFT年代 $3.4 \pm 0.7 \sim 9.7 \pm 1.4$ Ma、U-Pb年代: $2.9 \pm 0.8 \sim 71.7 \pm 2.8$ Ma となり、噴出年代は概ね八尾地域に分布しているテフラ（OT2, OT3, 角井，1986）に対比される値となったが、FT年代に比して非常に古いU-Pb年代を示すものがあり、さらに対比を確認する必要がある。

キーワード：北陸層群、テフラTR1、テフラ Tng

Keywords: Hokuriku Group, TR1 tephra, Tng tephra